2025年3月19日•21日　水曜祈り会•金曜集会　　吉田真司

本日の学び　　テーマ:「仕える者」　テキスト:マタイ23章1節-12節

【理解の手がかりとして】

エルサレム入城後、イエス様はユダヤ教指導者層から何度も論争を仕掛けられ、その都度巧みに彼らを論破してこられた。その一連の出来事を見ておく。

※「ファリサイ派」•••ヘロデ時代に 6000 人の党員を有し、全ユダヤに影響力を持ったユダヤ教一派で、律法の厳格な実践主義グループ。形式的純潔を重んじ、本来の目的から逸脱して偽善に陥った。 「ヘロデ派」•••ローマの支配権に満足し、ヘロデ王家の支配を望んだ一派。 「サドカイ派」•••現実的•合理的•世俗的な一派。復活•天使•霊などについても否定的。

■ 「権威についての問答」マタイ 21:23-27

イエス様が神殿で教えているとき、ユダヤ教指導者層の者が来て、イエス様の行動がどのような権威や資格に基づくのかを尋ねる。この質問に対して、イエス様はすぐ反対質問を発して、バプテスマのヨハネを引き合いに出す。彼らはそこで返答に窮し、イエス様も最初の質問への返答を保留された。

■ 「皇帝への税金についての問答」マタイ 22:15-21

皇帝への税金についてファリサイ派とヘロデ派が手を組み、イエス様のもとに来て尋ね、イエス様が賛否どちらの答えを出しても直ちに追求できるよう手はずを整えた。イエス様の返答は、実に見事で、議論に乗っからず、質問者の現実と矛盾を突きつけて追い返された。

■ 「復活についての問答」マタイ 22:23-33

イエス様に対してサドカイ派が復活信仰の矛盾を、聖書を根拠にして質問した。これに対してイエス様は独自の解釈で追求を退けられた（言い込められた）。

■ 「最も重要な掟についての問答」マタイ 22:34-40

イエス様を罠に陥れようとしたファリサイ派の計画は失敗し、サドカイ派も神学論争に破れた。そのイエス様の言動に容易ならざるものを感じ取ったユダヤ教指導者は集まって謀議をし、もう一度イエス様に議論をしかけた。それが「最も重要な掟」に関する問答である。

■ 「ダビデの子についての問答」マタイ 22:41-46

律法学者の代表者たちが順次イエス様との論争に破れた後、イエス様の方から最後に議論をしかけられた。「ダビデの子」（メシア）観をめぐる議論で、「だれ一人、ひと言も言い返すことができず」「質問する者もなかった」（22:46）ほどのものであった。

以上の様に、イエス様はユダヤ教指導者層からの論争を巧みに論破されてきた。そして彼らが何ら文句を言い得ないところまで追い込まれた。こうした流れを受けて、23 章では律法学者とファリサイ派に対する徹底的な攻撃の言葉が積み重ねられている。彼らに対する非難の厳しさは、単に彼らの偽善ぶりを数え上げるに留まらず、罵倒と言っていいほどの口調での攻撃である。

これほどの激しさの背景として、福音書の背景を洞察する中で幾つかの理由を示される。

① マタイ福音書が成立した時代はユダヤ教とキリスト教との抗争が悪化しており、キリスト教徒は背教徒と断じられ、迫害を受けていた。

② 紀元70年のエルサレム陥落と神殿崩壊という悲劇的事件の要因をユダヤ教の不信仰に見ている。

③ マタイ福音書著者の教会内にファリサイ派に匹敵するほどの「偽善」を見、それへの警告を発する必要があった。ユダヤ教徒を反面教師とし、教会内における教階的差別や名誉欲への警告、自己批判を呼びかける必要があったのであろう。

大沼上氏は「えらい人・仕える人」（聖書かわら版）と題して次のように述べる。「熱心、しかも神に対する熱心は、およそ良きものである。しかし、『その熱心は深い知識によるものではない。なぜなら、彼らは神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め、神の義に従わなかった』（ローマ 10・2）のであれば、その熱心は神に対するもののようでありながら、『自分の義を立てようと努める』という神への敵対となる。偽善を覆うものは、まさにこのような危機にほかならないのである。…人の世における、事柄の大小、強弱の尺度は、神の国では全く意味をなさない。それはひたすらキリスト・イエスのいのち、そのみわざの様態に係り、基づく。…キリストのいのちの様態に基づく大きさは、世の人の思いにあっては最も卑小なものと見られる。その極みが罪人のためにだれにも理解されずに負い遂げたまうた十字架にある。この『己を低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた』という低みこそが…真の高みなのである。」

このテキストの学びを通して自らを振り返りたい。その時、人の目の「おが屑」（マタイ 7:3）を指摘するより先に、「自分の目の中の丸太」（同）に気づかされるであろう。その自己批判的瞑想の時、それが受難節である。

【聖書教育より】

「私たちはキリストを先生として共に学ぶ、共に生きる者たちなのです。」（聖書の学び～先生、父、教師）

「弟子たちの関心事は、だれがいちばん偉いかでした。…マタイによる福音書が書かれたマタイ教会の地位争いに対しての教えでもあったと思います。パウロは…互いに仕え合う者であることを勧めています。」（聖書の学び～仕える者）